

提言骨子（たたき台）

淀川水系河川整備計画に基づく事業の進捗と効果（現状評価）

宇治川

- 河道は河川整備基本方針レベルまで流下能力を概ね確保。
- 堤防強化は完了。ただし、平成 25 年台風第 18 号では漏水を確認。
- 天ヶ瀬ダムは令和 3 年度末完成予定。

木津川

- 河道は河川整備計画レベルまで流下能力を確保。
- 堤防強化は令和 2 年度完了予定。ただし、平成 29 年台風第 21 号や令和元年台風第 19 号では漏水を確認。
- 川上ダムは令和 4 年度末完成予定。

桂川

- この 10 年で治水安全度は大きく向上したものの、整備計画レベルまでにさらに 200 万 m³ の掘削が必要など、まだ大きな乖離。
- 嵐山地区は、平成 16 年出水対応(満水評価)となる左岸溢水対策が R2 年度末概成予定。平成 16 年出水の安全な流下のためには、さらに「一の井堰改築」、「派川改修」が必要。
- 府管理区間は、これまでに 1/10 相当の出水規模に対して流下能力を確保。現在、霞堤 1m 嵩上げを実施中。
- 日吉ダムは、放流量を 150m³/s とする暫定運用を実施。

淀川水系のさらなる河川整備について

近年の降雨傾向や将来の気候変動を踏まえた目標設定

- 計画は、気候変動の状況や需要の変化に対応して柔軟に見直すべき。
- 目標は、平成 25 年洪水を基本として、さらにそれを超える規模や三川のピークが重なる場合など、様々なケースにより検討すべき。

更なる治水安全度向上に必要な事業メニュー

- 桂川直轄区間は、早期に平成 16 年出水対応を完了させるとともに、戦後最大出水対応及び、さらにそれを超える規模に対応する河川改修を進めるとともに、堤防の日常的な維持管理と、必要に応じて堤防補強を実施する必要がある。
- 桂川府管理区間は、上下流バランスをとりながら改修を進める必要があり、それにより、早期に日吉ダムの暫定操作を緩和・解消し、桂川全体の治水安全度向上を図る必要がある。
- 宇治川は、平成 25 年台風第 18 号による漏水、天ヶ瀬ダム再開発の完成により流量増加、沿川の開発などを踏まえ、日常的な維持管理と、必要に応じて堤防補強を実施するとともに、戦後最大出水対応を超える規模に対応する河川改修を進める必要がある。
- 大戸川ダムについて(第 2 回の議論を踏まえ記載)
- 木津川は、平成 29 年台風第 21 号や令和元年台風第 19 号による漏水を踏まえ、日常的な維持管理と、必要に応じて堤防補強を実施するとともに、戦後最大出水対応を超える規模に対応する河川改修を進める必要がある。
- ダム再生など、既存施設の有効活用を検討する必要がある。

その他の留意事項

流域治水との関係について

- 河川整備計画と流域治水の関係を考慮のうえ、流域治水の取り組みを進めるべき。
- 流域治水の定量化のための技術開発等を進めるべき。
- 特に園部川などダムのない流域では、流域治水の可能性を検討すべき。

堤防強化および維持管理について

- 堤防は、沿川開発の状況なども踏まえ、適切な強化と維持管理が必要。
- 河道掘削は維持管理による後年度負担にも配慮が必要。
- 大戸川は土砂流出が多い河川のため、土砂流出を減らす流域対策も必要。